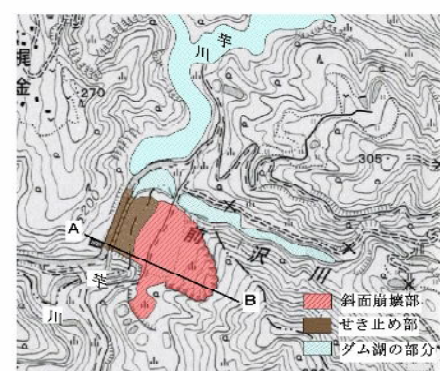
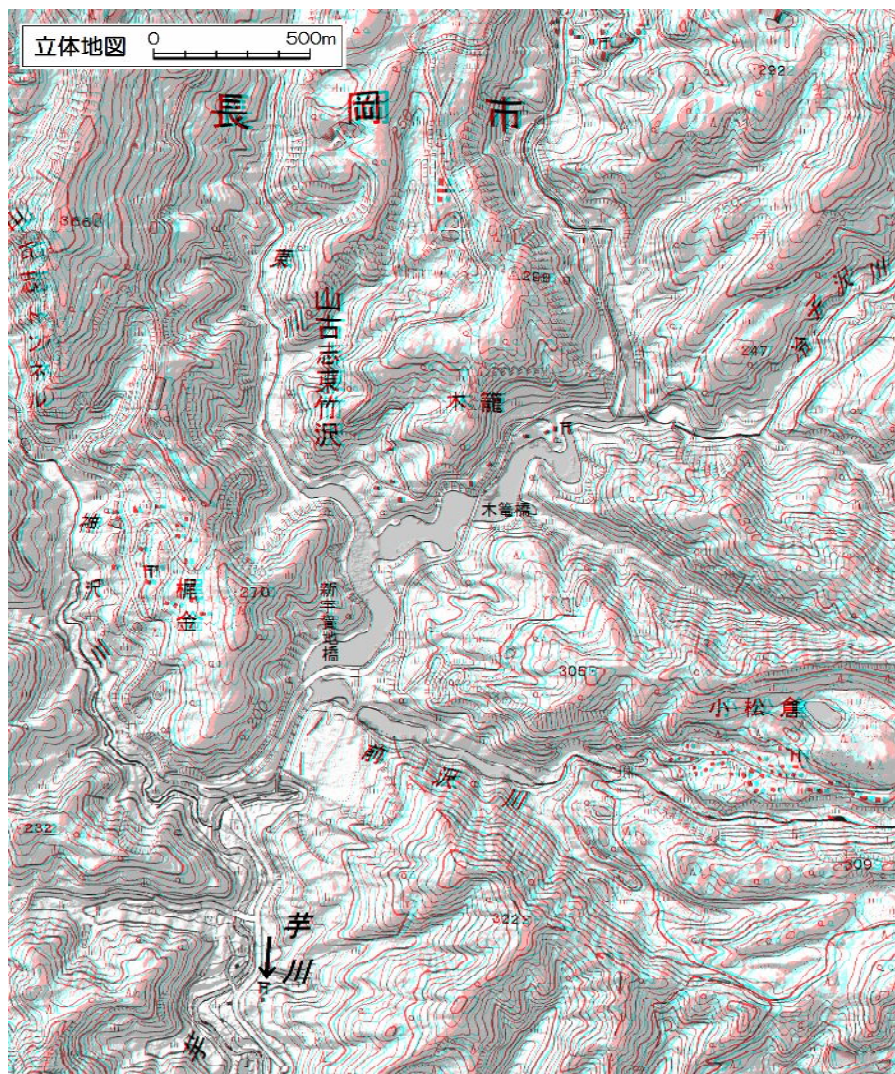
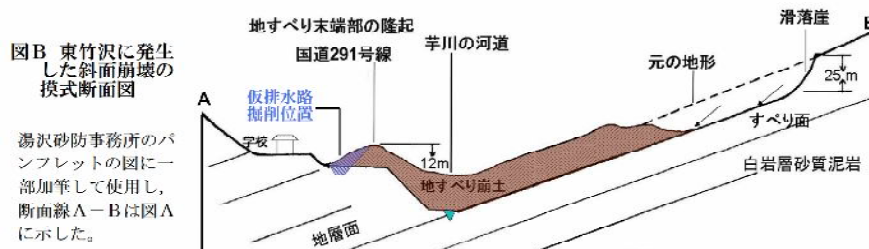


## 10. 中越地震のつめ跡 —— 斜面崩壊とせき止め湖（長岡市山古志木籠付近）



図A 東竹沢の斜面崩壊と天然ダム  
北陸地方整備局湯沢砂防事務所のパンフレットの図を一部加工して使用した



図B 東竹沢に発生した斜面崩壊の模式断面図

湯沢砂防事務所のパンフレットの図の一部加工して使用し、断面線A-Bは図Aに示した。



図C 天然ダム湖の出現で水没した木籠集落の家々（「語りつく10.23」(2006)より）

中越地震（2004年）では震央に近い旧山古志村内にさまざまな被害が発生しました。なかでも丘陵斜面に多くの崩壊が発生し、建物はもとよりライフライン・農地は多大な被害を受けました。

立体図に示す東竹沢では、図Aに示したように前沢川が芋川に合流する地点の南側、芋川の左岸（川の下流を見て左側）で、地震動による大規模な崩壊が発生しました。崩壊は、白岩層とよばれる、砂質泥岩と砂岩層が互いにくりかえす地層の部分で起こりました。図Bは崩壊を起こした場所の断面図ですが、砂質泥岩は約20度西（芋川に向かう方向）に

傾いており、斜面の傾きと同じ方向（このような関係の流れ盤といいます）であったため、崩壊が発生しやすかったと思われます。崩壊箇所には、すべり台の面のような長さ約70mほどの地層境界面が残されました。

崩壊した土塊は県庁舎の約7杯分に達し、土塊の先端は芋川を乗り越え、右岸側の国道291号線も完全に埋めてしまいました。この崩壊で芋川がせき止められ、天然のダム湖が出現したため、約1km上流の木籠（こごも）地区では、約10棟の家屋が水没しました。